久慈港

岩手県県土整備部港湾課

〒020－8570　岩手県盛岡市内丸10－1
☎019－651－3111㈹
URL：https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/kouwankuukou/kouwan/index.html

1. 概況

〈沿革〉

久慈港は県北部第一の港湾であり、八戸・宮古両港の中間に位置している。付近一帯は良好な漁場であるため、古くから漁業の中心地として繁栄し、久慈港北端の牛島付近は漁船の停泊避難港として利用されてきた。

昭和5年に内務省定港湾となり、昭和7年から昭和24年にかけて時局匡救事業、凶作対策事業として現在の玉の脇地区の一部が県営工事として建設された。

一方、久慈沖は船舶の遭難が非常に多いことから、八戸港・宮古港間に避難港の必要性が論ぜられ、昭和26年に全国で19港の避難港の1つとして指定された。

その後、久慈港を県北地域開発の拠点とするための基盤整備として昭和31年より堀込港湾の建設に着手し、昭和44年には－6.0m（延長210m）、－4.5m（延長780m）岸壁が完成し、背後からの鉱産品及び林産品等の移出、更には漁業基地としてその利用が活発化してきている。

また、昭和50年4月には重要港湾に指定され、これを受けて久慈地域の工業開発背後圏における諸計画をふまえ、港湾機能の拡充を図るため新たに外港地区に昭和60年を目標とする港湾計画が港湾審議会第77回計画部会の議を経て決定し、昭和59年には－10m岸壁1バース、－7.5m岸壁1バース、さらに昭和63年には－7.5m岸壁2バース目が供用開始された。

岩手県は東北縦貫自動車道、東北新幹線等の基幹的交通ネットワークが形成されるとともに、三陸沿岸においても国道45号、三陸鉄道に加え、東北縦貫自動車道八戸線や久慈・九戸間の横断道の開通によって広範囲な地域間流動が盛んになるものと期待され、また、久慈港は国家石油地下備蓄基地建設を契機として、県北地域開発の中枢機能を備えた新たな港湾整備が望まれていたことから、昭和60年11月の港湾審議会第111回計画部会の議を経て、湾口防波堤及び半崎地区の工業開発を中心とする港湾計画の改訂がなされた。特に昭和63年度から実施設計調査に着手した湾口防波堤は津波防災対策や湾内の静隠度を確保するうえで本港の根幹的な施設となるものである。

平成18年、半崎地区に久慈市を代表する企業となる北日本造船㈱が立地し、その後、数次にわたって、工場の拡張が続けられている。

平成23年3月、東日本大震災津波の被害を受けたが、関係者の努力により短期間で復旧した。また、港湾取扱貨物量は復旧・復興資材の取扱が堅調となり、震災による減少は見られなかった。

〈地勢〉

本港は、県北東部（北緯40度11分、東経141度48分）に位置し、湾口約4km、湾奥約3kmの半円径の広大な湾の奥部にある。湾口部の水深は約20mと比較的浅く、湾内は、直接太平洋に面しているため波が荒く漁業の生産性が低い。また背後地には広大な未開発台地が広がっているなど港湾を中心とした開発の可能性が大きい。

〈市勢〉

久慈市は、面積624㎢、人口約35,000人、就業者数約16,000人で産業別の人口をみると、第一次産業10％、第二次産業28％、第三次産業62％となっている。

平成25年の連続テレビ小説「あまちゃん」で久慈市の北限の海女がとりあげられたことから、観光客が急増し、知名度が上がった。

また、久慈地方は古くから天然樹脂の宝石である琥珀の採掘が行われており、国内最大の琥珀産地として知られている。

〈特徴〉

本県港湾は三陸沿岸特有のリアス式の湾形を利用した天然の良港として港湾生成の歴史は古い。しかしながら、現在この限られた湾域は既に高度に利用されている。

これに対して、本港は、約1,200haにも及ぶ湾と未開発の台地が控えており、臨海型工業立地の条件を備えている。また、後背地には石灰石、硅石、石材等の地下資源、林産資源が豊富で、これらの開発も行われている。

また、湾口防波堤が完成することによって、広大な静穏水域が確保され、この水域を利用した新たな産業形成が期待される。

さらに、東日本大震災後に三陸沿岸道路の整備が急速に進められており、物流の飛躍的な拡大が期待されている。

〈計画〉

湾口地区では、令和10年度の完成を目指して湾口防波堤3,800ｍの整備が着実に進んでおり、完成後は港内全体の静穏度の向上が期待される。